

平成30年度金沢大学学校教育学類附属学校園連携GP  
(附属学校園連携GP) 活動成果報告書

取組名称 (全角20 字以内)	基本運動獲得のための運動プログラムの開発		
	発達段階に応じた動作・有働能力の習得を目指し12年間を見通した運動プログラムづくり		
取組学校等	特別支援学校		
連携学校・学類	学校教育学類	取組期間	平成28年4月～平成30年3月 (3年0ヶ月)
	附属幼稚園		
ふりがな	つるおちあき	所属校園名 及び職名	特別支援学校 教諭
実施担当責任者	鶴尾千亜紀		
電話番号	076-263-5551		

## 1. 取組の活動内容と成果

※取組の具体的な実施内容と成果について、当初設定した目的・趣旨・期待される教育効果に照らし、1ページ程度で分かりやすく記述してください。必要に応じ、図表等を用いても構いません。

※成果物等がある場合は、この報告書とあわせて提出してください。

### 【実践内容と成果】

○平成30年度の実践で得られる効果・期待される改善効果の視点から

- ・児童生徒の体幹力・心身機能の向上
- ・運動プログラム確立により、系統性のある授業が展開できる
- ・専門教科の教員がいなくても効果的に体育の授業を行うことができる
- ・高等部ではスポーツテストの記録が向上する生徒が多くみられた。経験を重ね、やり方やコツを学んだこと、記録の分析結果をもとに自分の課題を知り、改善しようと取り組む姿が見られたことなど、生徒たちの運動に対する意識の変化が感じられるようになった。
- ・授業実践では、各学部の体育の授業でラダー運動を実施した。小学部では遊びの要素を取り入れながら、達成感を得られる活動を目指し準備運動に取り入れた。中学部では、楽しく取り組み、活動量が多く、主運動につながる準備運動となる視点で実施した。高等部ではラダーのメニューを9つに固定し、学期ごとに成就テストを行い、実態の分析を行った。1・2年生よりも、3年間ラダーを実施している3年生の方が「出来なかった課題が出来るようになる」のが早く、成就率が上がっていることがわかり、ラダー運動を継続して行うことで効果があったと考えられる。ラダー運動を通して系統性のある授業を展開し、児童生徒が成功体験を積んだり、運動することの楽しさや心地よさを味わったりすることは、自ら体を動かそうとする気持ちや、目標に向かって意欲的に取り組む姿勢につながり、児童生徒の心身の発達を促していくと考えられる。

## 連携

○学校教育学類保健体育専修の学生が、以下の内容で体育の授業を行った。

対象：本校高等部生徒26名 単元：バスケットボール

①授業参観

②学習指導案をもとに、授業づくりを検討（大学教員、学生、特別支援学校教員）

③授業

④振り返り

昨年度に引き続き、保健体育専修の学生による授業を実施した。事前の授業参観で学生は、実態の把握を行い、学習指導案を作成した。学習指導案をもとに生徒の実態に応じた授業の検討、1回目の授業を終えて成果や課題を検討、授業後の振り返りを行った。短いかかわりの中であったが、学生は生徒の特性を理解しようと積極的に生徒とコミュニケーションをとり、わかりやすい授業を行うため試行錯誤しながら取り組む姿が見られた。教員を目指す学生にとって特別支援学校で授業を行う機会を持つことは「運動の苦手に対する理解」を深める学びの場となっていることを再確認する機会となった。

○金沢大学養護教諭特別別科の学生と連携し運動器検診を実施した。学生は姿勢分析器で児童生徒の姿勢を測定し、撮影した写真を使ってチェックシートを作成し、その結果をもとにそれぞれの学部で姿勢をテーマに保健指導を行った。運動器検診を通して本校児童生徒の特性や課題を知ること、その結果を養護教諭だけでなく学校全体で共有することで学校生活の様々な場面で取り組むことができることを学ぶ機会となった。

## その他

平成30年度石川県特別支援学校保健体育研究会において3年間の実践報告を行った。特別支援学校の児童生徒にみられる課題や特徴の共有や、課題解決のために有効な授業実践の提案をもとに意見交換を行った。また、金沢大学附属特別支援学校教育研究会のポスター発表では、3年間の実践について参加者と意見交換をしたり、授業で使用している教材の紹介を行ったりした。参加者からは多くの質問があり有意義な時間となった。

## 2. 平成30年度の実施計画に対する達成度の自己評価

評価（いずれかに○）	評価の理由
a. 達成できた	3年間の研究の成果を石川県特別支援学校研究会や本校の教育研究会で発信し、県内外の参加者と意見交換や情報共有することができた。また学校教育学類保健体育専修の学生や養護教諭別科の学生と連携した教育実践は生徒の学びはもとより学生にとっても貴重な学びの機会となった。以上のことから今年度の計画は概ね達成できた。
<input checked="" type="radio"/> b. おおむね達成できた	
c. あまり達成できなかった	
d. ほとんど達成できなかった	

## 3. 今後の目標・展望

※今年度の実績を踏まえ、今後の目標・展望を500字程度で記述してください。

- ・小学部では、ミュージック・ケア、ラダーの実践、作業療法士・理学療法士との連携を続け、外部専門家から得た情報を活かしながら、児童の運動への意欲や心身の発達を促すための実践を行う。
- ・中学部、高等部では体力・運動能力テスト、運動器検診のデータの比較・分析を行い生徒の課題を明確にする。
- ・3年間の実践をもとにラダーを中心とした準備運動のメニューをそれぞれの学部で行い、生徒の実態に応じたものに改善し本校独自の運動プログラムとして確立させる。その実践や、体力運動能力テスト

のデータをもとに特別支援学校におけるラダー運動の有効性を明確にし、石川県特別支援学校保健体育研究会や本校教育研究会などで発信を続ける。

- ・学校教育学類、養護教諭別科と連携を行い、教育実習に加え、特別支援学校で学ぶ児童生徒との関わりを通して教員を目指す学生が教育的ニーズの把握と適切な支援を考えた授業づくりを考えるなどの学びが得られる連携の在り方を検討していく。